

令和7年度（2025年度）学校評価

4.2 長野県野沢南高等学校定時制

○重点目標・評価の観点・自己評価（A 達成できた B 概ね達成できた C 達成できなかった）

外部（学校評議員）評価（A とてもそう思う B そう思う C 改善が望まれる）

領域	対象	重点目標	評価項目	評価の観点	自己評価	成果と課題・改善策（主な記述）	外部評価
学校運営	教務	効率的な学校運営、落ち着いた環境づくり	諸行事の運営・職員会議の運営	効率的・効果的な運営と工夫がなされたか。周知徹底、効率的な運営ができたか。	A	事前に各係・担当との打ち合わせを徹底できた。	A100%
		諸行事の企画・運営・PR	諸行事・入試選抜業務の企画・運営	適切な企画・運営をすることができたか。定時制HP等により、学校の最新情報を提供できたか。	A	定期的にHPを更新し、行事の際の掲示を分かりやすくできた。	A100%
		地域により信頼される定時制教育の研究	定時制教育のあり方についての研究	定時制教育の課題（授業改善、生徒支援、キャリア教育、人権教育等）について、職員間で共有することができたか。	A	日頃から各係からの情報を共有ができています。	A100%
教育活動	学習指導	基礎基本の定着と学習意欲の向上	学習計画の明示と基礎・基本の定着に向けた工夫	シラバスを作成し、学習計画・学習内容等を明示したか。生徒の理解度や進度に応じて柔軟に対応し、基礎基本の定着を図る工夫ができたか。	B	学習率用については、基礎基本の定着に主眼を置き、生徒個々に柔軟に対応できた。学習計画や学習内容の提示は行っているが、中々生徒が把握できていない状況がある。	A20% B80%
			個別指導の充実	生徒の学力や資格取得希望に応じた個別指導の工夫ができたか。	A	少人数の利点を生かし、生徒個々に応じた柔軟な指導に努めることができた。	A80% B20%
			学習意欲の向上	学ぶ楽しさや意義を見いだせるような、分かりやすい教材づくりができたか。生徒の主体的学びにつながる授業改善に取り組むことができたか。	B	理科の実験など、教科によってはICTを積極的に利用し、生徒の興味関心を引き出すことに努めた。	A60% B40%
	生活指導	学習環境の整備	授業を大切にする指導の徹底	授業のチャイムスタート、遅刻・早退・欠課の減少、私語や携帯等の継続的指導がなされたか。	A	チャイム着席はできている。授業中の姿勢等の指導は、継続していきたい。	A80% B20%

		校内の整理・整頓	生徒が校舎内外の清掃、教室・食堂・体育館等の後片づけを積極的にするよう指導ができたか。	A	整備・清掃活動には、生徒は進んで取り組んでいる。ロッカーの使用については、継続して指導していきたい。	A80% B20%
		出欠席の掌握	毎時間の出欠席を掲示板へ記入し、確認することができたか。	A	出欠管理は職員全体で徹底して行い、共有もできている。	A100%
保健	生徒の自立に向けての支援態勢充実	相談体制の充実	生徒の悩みや要望を受けとめられるように、日頃から生徒との関係づくりに留意し、生徒理解を深めることができたか。	A	生徒の声に寄り添い、話しやすい環境や、関係づくりに努めることができた。	A100%
		不登校生徒への支援	欠席の多い生徒に対し、電話連絡や家庭訪問等で連絡を密にし、必要に応じて外部との連携がとれたか。	A	家庭連絡は主に担任が行い、必要に応じてスクールカウンセラー等とも連携し、個に応じた支援ができた。	A100%
		学校行事への参加	学校行事に対して、「自分たちでつくり」「自分の行動に責任を持つ」意識を喚起し、学校行事への参加がはかれたか。	B	様々な行事に対して、前向きに取り組む姿勢がみられた。	A60% B40%
生徒会		生徒会活動の活性化	生徒の創意工夫を最大限尊重し、生徒が主体となって取り組む場面を増やすことで、自主的・主体的に行動できる生徒会を育成できたか。	A	文化祭の「てーじ喫茶」で、パンケーキとフルーツポンチを手作りで販売した。クラスマットは、全校で協力し、楽しく行うことができた。	A100%
		クラブ活動の活性化	生徒の意向を取り入れた運営等、クラブ活動に積極的に参加できるような支援ができたか。また、文化部の活性化に向け努力がされたか。	B	バドミントン部は、楽しく熱心に取り組めた。美術部は文化祭で作品展示を行った。	A40% B60%
進路指導・キャリア教育	個々に応じた進路指導	進路目標の明確化	個々の生徒の状況に応じた進路指導の取り組みができたか。	A	個々の希望や状況に応じて、柔軟な進路指導を実施できた。	A100%
		進路相談の充実	ハローワークとの連携、全職員の協力による進路相談体制の充実が図られたか。	B	全職員で協力して取り組んだ。今後は情報共有を徹底し、生徒個々に合った相談体制を更に充実させたい。	A40% B60%

		情報提供等による就業支援	ハローワークとの連携を密にし、職場情報を提示する等、就業希望のある生徒を支援する対策をとることができたか。	A	ハローワークを積極的に活用することができ、就職希望者は全て内定を得ることができた。	A100%	
		社会性の育成	校内生活での礼儀・作法等や、社会人としての常識・マナー等の指導ができたか。	B	ソーシャルスキルトレーニングの中で取り組んだが、日頃からの指導をさらに充実させていきたい。	A20% B80%	
		キャリア教育の視点に立った教育活動	キャリア教育の充実	生徒の社会的・職業的自立に向け、キャリア教育の視点に立って教育活動に取り組むことができたか。	A	進路ガイダンスを2回実施するなど、進路に対する意識づけができた。また、「社会見学旅行」でも、視野を広げることができた。	A80% B20%
	人権教育	人権意識の向上と安全安心な学校づくり	人権意識啓発のための活動推進	人権教育講演会をはじめとする啓発活動によって人権意識を向上させることができたか。日常においても機会をとらえて啓発することができたか。	A	講演会を複数回実施することができ、人権意識の啓発に努めた。また、公民や保健の授業内でも、基本的な理解を深めることができている。	A100%
		安心感を抱ける居場所づくり	いじめ予防のために日頃から注意深く生徒を観察することができたか。万一いじめが発生した場合でも、関係各所と連携して早期解決が図れるよう努力したか。	A	今年度重大ないじめ事案は発生していないが、今後も生徒の様子を注視していきたい。	A100%	
	外部連携	全般	保護者との連携	生徒の出欠席状況、その他生徒に関する学校生活の情報を保護者に連絡する体制がとられていたか。また、日頃から緊急時への対応ができる連絡体制が整備されているか。	B	緊急時の連絡体制は常に整えている。出欠状況等の保護者への連絡については、改めて校内のルールを徹底したい。	A40% B60%
「学校 HP」「学年通信」等で学校の様子を保護者や地域に発信し、行事への参加を呼びかけることができたか。				B	HPだけでなく、オンラインでも積極的に活用し、連絡体制の充実を努めている。	A60% B40%	

		中学校やフリースクールとの連携	学校説明会や見学会、授業公開を実施し、生徒について情報交換や密接な連携が図られたか。	A	既存の行事だけでなく、中学校等と連携し、必要に応じて、学校見学等は柔軟に行うことができた。	A100%
			近隣中学校、フリースクール等、不登校支援団体との交流や連携を緊密にすることができたか。	A	常に情報共有が可能な体制を整えている。	A100%
		就労先との連携	定職者やアルバイトの企業と必要に応じて連絡を取ったか。	B	アルバイトについては、生徒の動向を把握できるようにしていきたい。	A60% B40%